

毎日気軽に遊びに行きたい

エンゼル・ドリーム

屋外の遊具も、屋内の設備も充実。
天候を気にせずに子どもたちが走り回れる。
しかも、全国で「クレヨンしんちゃん&かすかべ防衛隊」の
モノコメントに会えるのはココだけ。
早速、会いに行こう！





ボランティアスタッフと一緒に飛行機作り
に挑戦する親子。

まるでアミューズメント パークのような楽しさ

土曜日の朝10時。開館時間を回ると、続々と来館者がやってきた。ベビーカーを押してくるママ友たち、子ども連れの家族、友達同士でやってくる小学生たち……。受付を済ませると、それぞれお目当てのコーナーを目指す。

屋外に設置された大型のアスレチック遊具やローラー滑り台。クライミングウォールや遊具が置かれた広いプレイルーム、パソコンコーナー。

夏になれば、噴水やウォータースライダーで水遊びもできる。児童センター



パズル、
ちゃんとできる
かな？



子どもたちを温かく見守る坂巻館長。

というよりも、まるでアミューズメントパークだ。

お気に入りの場所で、子どもたちは夢中になって遊ぶ。毎日のように来館する親子連れが多い、というのもうなすける。

子育てよろず相談所と 思ってた来てほしい

「つばさちゃん、おはよう！」「ゆうくん、元気だった？」

来館者の一人一人に笑顔で声をかけていたのは、エンゼル・ドームの坂巻麻美子館長だ。自らも二人の子どもを育て、30年以上ソーシャルワークの仕事に携わってきた子育て支援のプロである。坂巻館長が言う。

「エンゼル・ドームの役割の一つはもちろん、子どもたちに元気に遊んでもらうこと。もう一つはママたちの育児相談に乗ることです」

核家族化が進み、近くに相談できる人がいない。孤立した中での子育て

は、ママたちに大きな不安を与えているという。

「初めて子育てをするママたちは、わからないことが多く、自分の子とほかの子を比較しがち。少しでも違うところがあると、一人でどんどん悪い方に考えてしまうのです」

坂巻館長は、そんなママたちの悩みをいち早く察知して、アドバイスをする。必要があれば、市の家庭児童相談員に橋渡しもしているという。だから、来館者とのコミュニケーションは欠かせない。特に子どもとママ一人で遊んでいる場合は、館長が積極的に声をかけている。

「悩むママたちには、『とにかく一度エンゼル・ドームに来て！一緒に何とかしよう』と伝えたい。ここは、子育てよろず相談所『ですから(笑)。もちろん、悩みがなくても、気軽に来てくれたらうれしいです」

中学生もボランティアスタッフとして活躍。
(おもしろ彩エンスクラブ)



小さい子ども安心して水遊びが楽しめる噴水。



長さ5mのウォータースライダーに子どもたちはみんな大はしゃぎ。



「エンゼルのまつり」の日。大勢のボランティアがかけつけて、子どもたちの遊びをサポートしていた。



昔の遊びは
感性を豊かに
しますよ!

イベントの企画を担当したボランティアの宮前芳雄さん。

エンゼル・ドームで、子育て支援に関わっているのは、館長やスタッフだけではない。100人以上のボランティアが登録しており、センター内でのイベントを主催したりとサポートに携わる。



屋外の大型アスレチックに子どもたちはワクワク大喜び!

100人以上の
ボランティアが活躍



- 春日部第1児童センター「エンゼル・ドーム」
- 所在地 春日部市牛島371-1
- 問い合わせ 048-755-8190
- 時間 10:00～18:00
- 休館日 年末年始(12月29日～1月3日)

エンゼル・ドームのように科学の実験を見せると、子どもたちの目がパッと輝く。その顔を見るのがもう楽しくて(笑) 全体で子育てを応援。応援する側も生きがいややりがいを感じている。相乗効果でまちはさらに活気づくりに違いない。

年に一度の恒例行事「エンゼルのまつり」の日、ボランティアグループがブースを出し、総出でイベントを盛り上げていた。子どもたちと「昔の遊び」に興じていたのはその中の一人、宮前芳雄さん。子育てをサポートしたいと市民グループ「ダイーズの会」を主宰する。「目指すのは『子どもの声が聞こえる街づくり』。小さな子どもと遊ぶと自分も元気をもらえます」 スライム作りを教えていたのは、小林久美恵さん。阪神淡路大震災を機に地域に根差した活動がしたいと、「おもしろ彩エンスクラブ」を立ち上げ、子どもたちに科学の面白さを伝えている。「マジックのように科学の実験を見せると、子どもたちの目がパッと輝く。その顔を見るのがもう楽しくて(笑)」